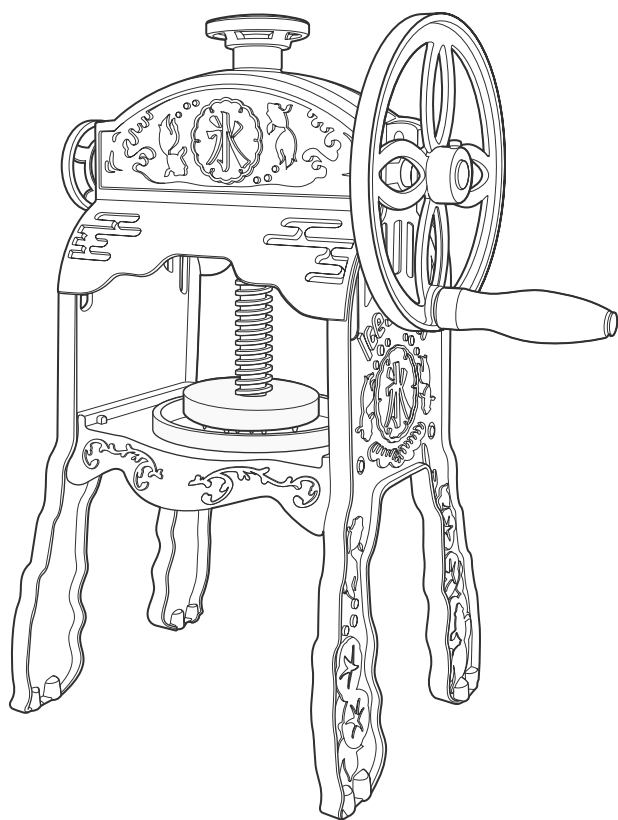


手動本格ふわふわ氷かき器 IS-AL-1500

取扱説明書・保証書



このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあとにもいつでも見られるように大切に保存してください。

※本機はお客様組み立て商品となっています。

も く じ

安全上のご注意	P. 2
各部の名称とはたらき	P. 3
準備	P. 4
正しい使いかた	P. 5～6
修理・サービスを依頼する前に	P. 7
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙



仕 様

品 名	手動本格ふわふわ氷かき器
型 名	IS-AL-1500
外形寸法	約 幅 36 × 奥行 21 × 高さ 45 cm
質 量	約 4.8kg
付 属 品	専用製氷カップ× 2、取扱説明書・保証書× 1



●仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)




図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「指示」を示します。)

警告

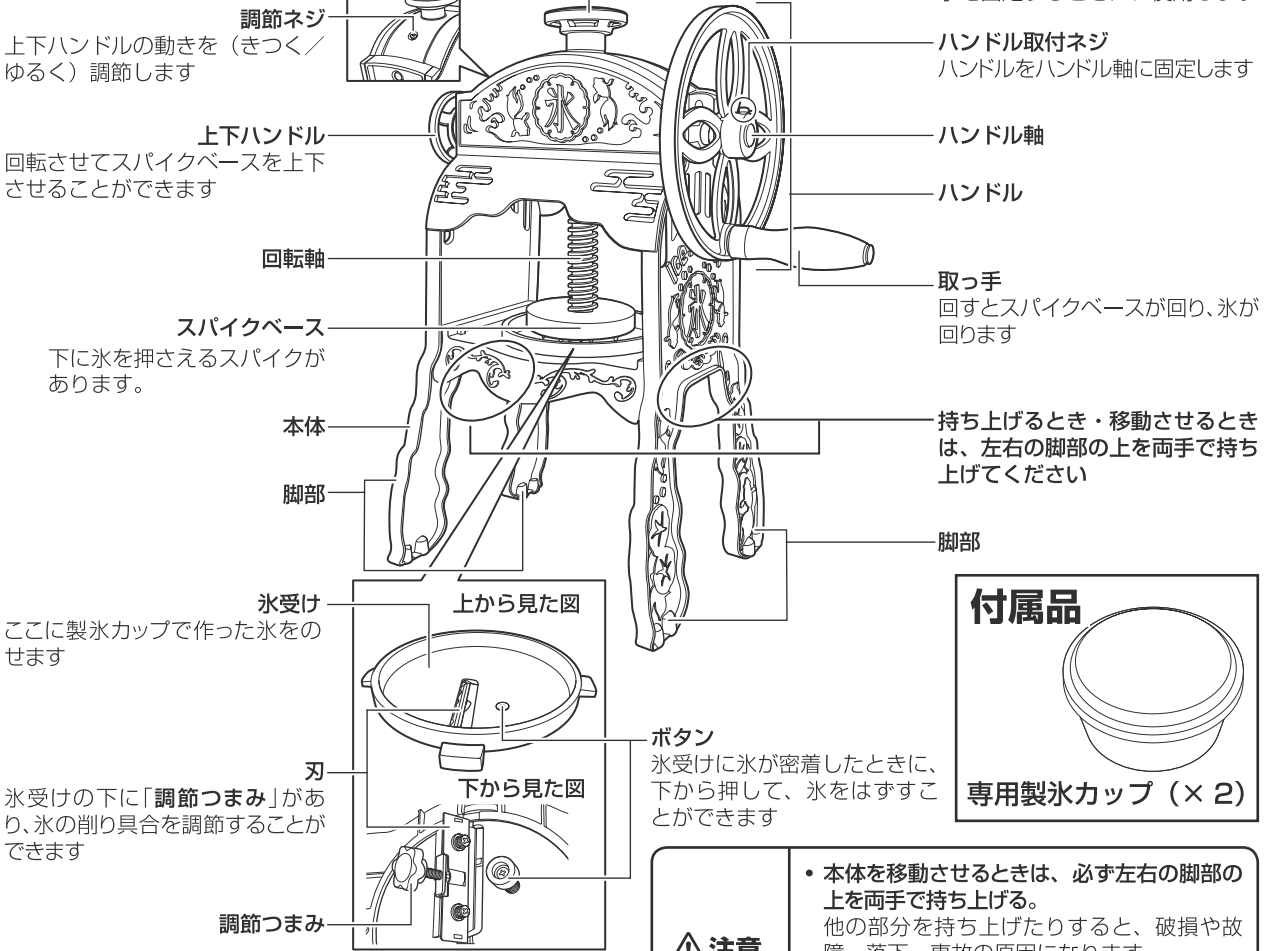
 禁止	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使用しない。 けがの原因になります。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 故障・けがの原因になります。修理は販売店またはドゥンシャお客様相談室（裏表紙参照）にご相談ください。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 故障・けがの原因になります。	 水ぬれ禁止	水につけたり、本体を丸洗いしない。 サビや故障の原因になります。

注意

 禁止	組み立てるときや、使用するとき、指などをはさまないように十分注意する。 鋭利な部品もあるため、けがの原因になります。	 禁止	お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉・漂白剤などを使わない。 変色・変形・故障の原因になります。
	傾いた場所や棚などの高い場所・不安定な場所には置かない。 転倒すると本体の破損、けがの恐れがあります。		製氷カップを洗うときはお湯・食器洗浄機・食器乾燥機は使用しない。 40℃以上のお湯を使用すると、変形の原因になります。
	業務用として使用しない。 本機は、家庭用として製造されているため、故障の原因になります。		冷凍庫から出した氷にすぐに素手で触れない。 氷に皮膚が貼り付いて、皮膚がはがれるなど、けがの原因になります。
	かき氷を作る以外には使用しない。氷受けには氷以外のものをのせない。 氷受けや刃・スパイクなどは、かき氷専用につくられているため、他の用途に使用すると故障の原因になります。	スパイクや刃に触れない。 けがの原因になります。	
	本体に変形や破損、異常箇所があるときは使用しない。 けがの原因になります。	 指示	各種ハンドルなどが回らない・動かないときは、無理に動かさないようにする。 無理に動かすと、故障の原因になります。
	製氷カップで作った氷以外使用しない。製氷カップには、水以外のものを入れて氷を作らない。 故障の原因になります。さらに水以外のものを入れると、サビや汚れ、故障の原因になります。		本機を使用しないときは、十分に乾燥させ、食用油を塗って、湿度の少ないところへ保存する。 サビの発生やカビが繁殖する原因になります。

各部の名称とはたらき

本体



⚠ 注意

- 本体を移動させるときは、必ず左右の脚部の上を両手で持ち上げる。他の部分を持ち上げたりすると、破損や故障、落下、事故の原因になります。
- ハンドルはしっかりと取り付ける。ハンドルの取り付けがゆるいと、落下して事故の原因になります(4ページ)。

専用製氷カップの販売について

部品小売価格表

部品名	部品型番	小売価格(税別)
製氷カップ大 (専用製氷カップ)	IS-AL-CUP	¥150

※部品価格は改定させていただく場合がございます。

ドウシシャのパーツ購入は

Do-cooking 情報ページ Do-cooking

検索

<http://www.do-cooking.com>

- * 送料につきましてはお客様負担となります。(¥500(税別))
- * 部品価格は予告なく変更することがあります。ご了承ください。
- * 切手でのご購入はできませんのでご了承ください。
- * 製品のデザインや仕様は、予告なく変更することがあります。それに伴い、部品の色や形状のご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。
- * 部品の購入について、ご不明な点がございましたらお客様相談室にお問い合わせください。
- * 当社の個人情報の取り扱い方針につきましては、当社ホームページに掲載しておりますプライバシーポリシー (<http://www.doshisha.co.jp/policy/>) をご覧ください。
- * インターネットをご利用できないお客様はお客様相談室にお問い合わせください。

準備

設置のしかた

1. 本体を十分強度のあるところに設置する

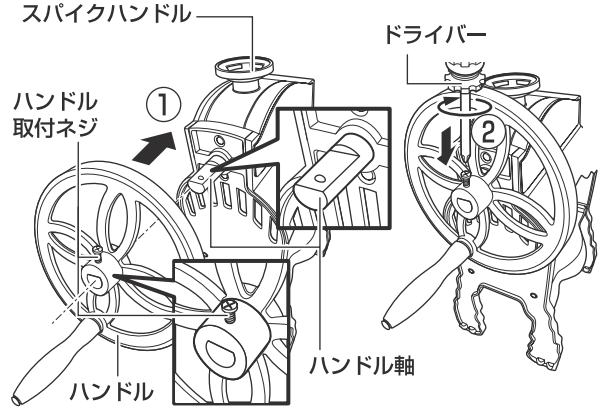
本体は重いだけでなく、ハンドルを回す力もかかるため、十分強度のある場所に設置してください。

⚠注意

- 重量があるため、テーブルなどの端を避け、中心部に置くようにする。
- 必ず4つの脚部を接地させる。ハンドルを回すときは、接地していることを確認してください。
- 使用するときには、まわりに氷が飛散するため、ものを置かないようにする。

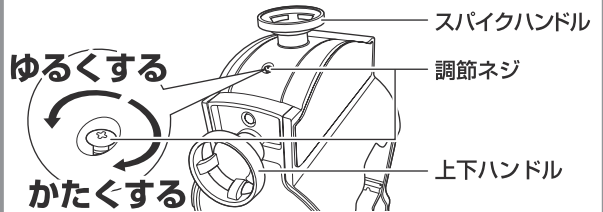
2. ハンドルの穴を軸の形に合わせてハンドル軸に取り付け①、ハンドルに付属しているネジをお手持ちのドライバーを使ってネジをしめる②

ネジをしめるときは、プラスドライバーを使用してください。



上下ハンドルの動きの調節

お買い上げ時は、調節済みですが、長年使用してスパイクベースが一定の高さで止まりにくくなったとき、調節ネジを回して、上下ハンドルの動きを調節してください。右に回すと動きがかたくなり、左に回すとゆるくなります。



氷を作る

1. 本体付属の製氷カップを十分に洗う

特に初めて製氷カップを使用するときには、十分に洗ってください。

⚠注意

製氷カップを洗うときは、食器用洗浄機、食器用乾燥機を使用しない。変形などの原因になります。

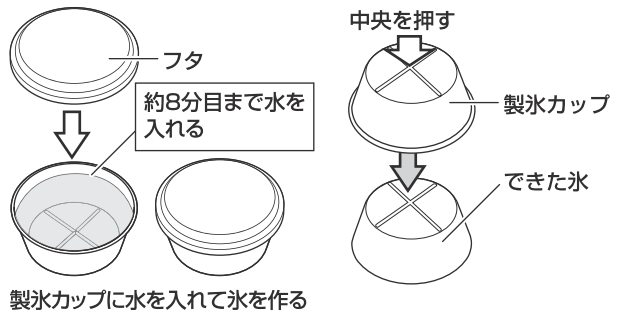
2. 水を製氷カップの約8分目まで入れ、フタをして冷凍庫に入れる

製氷カップに約8分目程度水を入れ、フタをして冷凍庫に入れてください。

⚠注意

- 製氷カップに水を入れすぎない。製氷カップ破損の原因になります。
- 製氷カップには水以外のものを入れない。本体のサビや故障の原因になります。

使用するときには、フタをはずして製氷カップの中央を押して、氷を取り出します。



製氷カップに水を入れて氷を作る

⚠注意

- 冷凍庫から取り出したばかりの氷に直接触れない。氷に皮膚が貼り付いて、皮膚がはがれるなど、けがの原因になります。
- 氷を製氷カップから取り出すときに、たたきつけない。製氷カップの破損の原因になります。
- できた氷はできるだけ早く使用する。氷をストックしておくことができますが、時間が経過すると霜が付き、かき氷に適した氷ではなくなります。

正しい使いかた

かき氷の作りかた

準備(4ページ)を正しく行なったことを確認の上、かき氷を作ってください。

1. 氷を受ける容器を刃の下におく

削れた氷を受ける容器を刃の下に置いておきます。

2. 上下ハンドルを回して、スパイクベースを一番上まで引き上げる

スパイクベースは一番上まで引き上げると、そのままの状態を維持します。

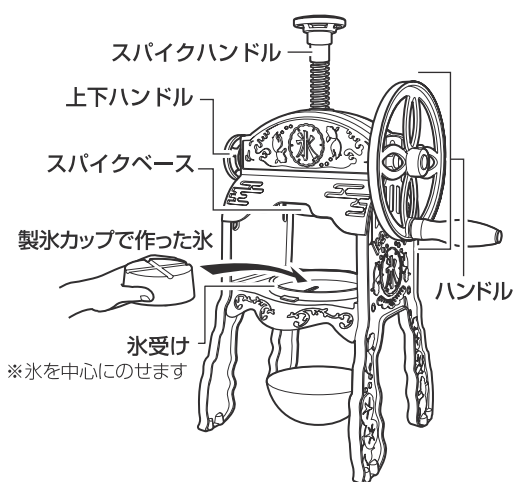
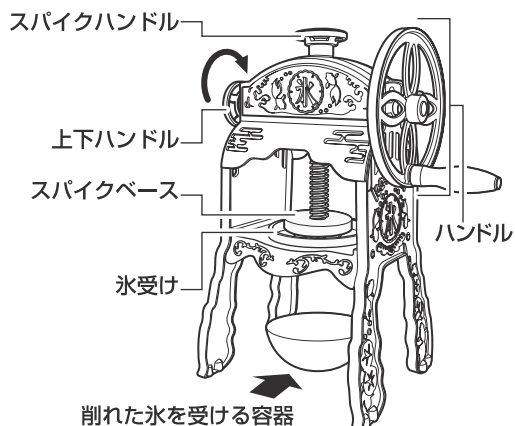
※スパイクベースが上で止まらない、または動かないなど、上下ハンドルの動きの調節は、「上下ハンドルの動きの調節」(4ページ)をご覧ください。

3. スパイクベースが止まったことを確認したら、製氷カップで作った氷を氷受けの中央にのせる

製氷カップで作った氷の横をつかんで、氷受け中央にのせてください。

冷凍庫から出してすぐの氷では、ふわふわかき氷はできません。氷の表面が少しとけた状態の氷を使用してください。

• 平らな面を下に、十字の模様のある面を上にしてのせます。



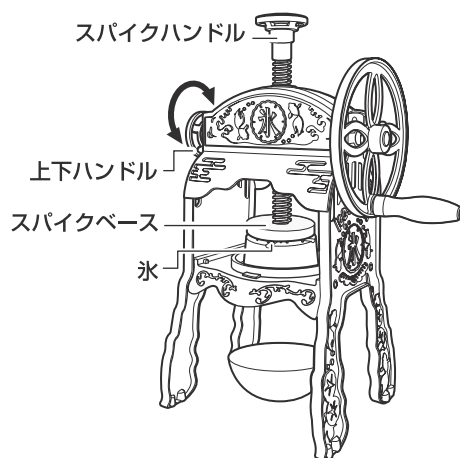
⚠️注意

- 氷を冷凍庫から出してすぐに素手で触れない。氷に皮膚が貼り付いて、皮膚がはがれるなど、けがの原因になります。
- スパイクベースを引き上げているときに、ハンドルを回さない。ハンドルを回すと、スパイクベースが落ちてくる可能性があります。特に氷を入れたりする作業中は危険ですので、ハンドルには触れないでください。
- スパイクベースを引き上げているときに、スパイクベース直下に指や手を入れない。万々スパイクベースが落ちてきた場合のために、氷は氷の横からつかんで入れてください。

4. 上下ハンドルを回してスパイクベースを下げ、氷にスパイクをくい込ませる

上下ハンドルを使ってスパイクベースを上げ下げして、スパイクを氷にくい込ませます。

※氷にくい込まないとき、スパイクベースを氷の上のせておき、数分おきます。



上下ハンドルを回すか、スパイクハンドルを押して、氷からスパイクがはずれないようにする

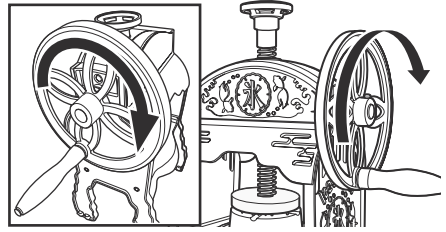
正しい使いかた (つづき)

5. ハンドルを回して氷を削る

本体上部を押さえ、ハンドルを矢印の方向に回すと、氷が回転して、氷の下にある刃が氷を削ります (右図)。

「刃の調節のしかた」をお読みにになり、調節つまみを左回しにしてから削り始めてください。

- スパイクが氷から離れてしまうときは、スパイクハンドルを押し (または上下ハンドルを回し) て、氷にスパイクを押し込みます。



ハンドルに向かって右に (時計回りに) 回す

刃の調節のしかた

本機では、氷を削る刃を調節して、氷の削り具合を変えることができます。

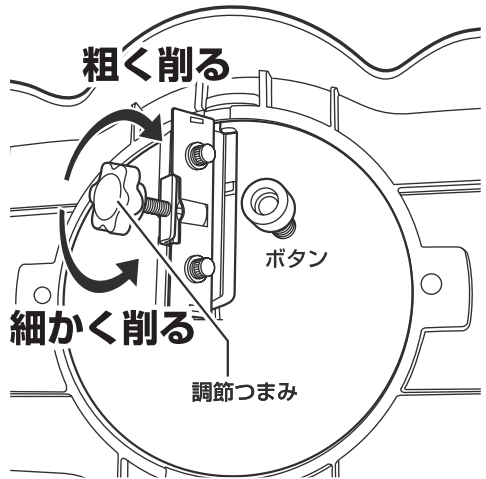
- 氷受けの下にある調節つまみを回して調節します。
 - 調節つまみは、氷受け下側から見て左回しがより細かく、右回しがより粗くするように調節できます。
 - 始めるときは調節つまみを左回しにして一番下まで下げ、少しずつ右回しにして調節してください。
- ※ 一度調節しても氷の状態によって氷の削り具合は違いますので、毎回調節してください。



注意

- 必ず細かい削りから始める。粗い削りから始めると、刃をいためる原因になります。
- 調節つまみを無理に回さない。調節つまみが動かなくなるところより、無理に回さないでください。故障の原因になります。

(上下ハンドル側)



(ハンドル側)

6. 削れた氷が出なくなったら、上下ハンドルを回して、スパイクベースを上げ、残った氷を取り出す

氷は最後まで削れずに、スパイクと氷受けの間の分、少し残ります。

残った氷を取り出すときは、刃のとなりにあるボタンを押して氷を持ち上げてください。

氷を取り出すときは素手で行わず、箸やヘラなどで取り出してください。



残った氷を捨て、続けて氷を削るには、最初に戻って(「かき氷の作りかた」5ページ)、繰り返してください。

7. 使用後は、必ずお手入れをする

別紙の「お手入れと保存」に従ってお手入れをしてから保存してください。



注意

- スパイクベースを引き上げているときに、ハンドルを回さない。ハンドルを回すと、スパイクベースが落ちてくる場合があります。特に氷を入れるときは危険ですので、ハンドルには触れないでください。
- スパイクベースを引き上げているときに、スパイクベース直下に指や手を入れない。万が一スパイクベースが落ちてきても大丈夫なように、氷の上部に指を置かず、氷の横からつかんで入れてください。
- 残った氷は使用しない。残った氷の上に新しい氷を置いたりして残った氷を使うことはしないでください。
- 刃やスパイクには十分注意する。けがの原因になりますので、刃やスパイクに触れないように十分に注意してください。
- 氷を取り除くときには、素手では行わない。残った氷を取り除くとき、素手で行なうと、刃やスパイクに触れ、けがの原因になります。ヘラや箸、ゴム手袋などを使用してください。

修理・サービスを依頼する前に

⚠警告 修理技術者以外の方は分解したり修理をしない。

「故障かな？」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
氷が削れない	• 刃が細かく削る状態になっていて氷にかからない	調節つまみを回して、少しずつ粗く削るように刃の状態を変える (6ページ参照)
	• 氷が平面になっていない、または氷が刃に当たらない	平面のある氷を使用する、または氷を多少溶かして、平面に近い状態にしてから使用する
	• 専用製氷カップで作った氷を使用していない	専用製氷カップで作った氷を使用する
	• スパイクが空回りしている	上下ハンドルを回して、何度か氷にスパイクを突き立てるようにして氷が回るようにする
	• 氷が氷受けに貼り付いている	氷受けにあるボタンを押して、氷受けから取りはずす まわりの温度を上げる（低い温度のときに使用すると氷受けに貼りつきやすくなります）
氷が連続で削られない	• 氷受けが正しく取り付けられていない	氷受けを正しく取り付けなおす
スパイクベースが降りてきて氷をのせることができない	• 調節ネジがゆるい設定になっている	「上下ハンドルの動きの調節」(4ページ)で調節ネジを回して途中で止まるように調節する
ハンドルが回らない・上下ハンドルが回らない	• スパイクベースが氷によって氷受けに固定されている	ボタンを押して氷を氷受けから取りはずす
スパイクハンドルや回転軸がカタカタ動いたり、きしみ音がする	• 故障ではありません	そのままご使用ください
氷を削るときに安定しない	• 脚部がすべて接地していない	脚部がすべて接地するようにする。どれか浮いてしまうときは、適当なものをはさんで使用する

株式会社ドウシシャ

(東京本社) 〒 108-8573 東京都港区高輪 2-21-46
(大阪本社) 〒 542-8525 大阪市中央区東心斎橋 1-5-5

故障・修理についての
ご相談に関しては…

⇒お客様相談室【受付時間】9：00～17：00（祝日以外の月～金曜日）
〒 556-0023 大阪市浪速区稲荷 1-6

☎ 0120-104-481

※商品名、品番をご確認のうえ、お電話をいただきますようお願い致します。
※ FAX もしくは、お電話をいただいた際にお話いただく情報は、お客様へのアフターサービスにおいて利用させていただきますので、ご了承ください。